

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1 訪問看護ステーション	共著	平成 7年10月	厚生科学研究所	訪問看護ステーションの開設者および管理者向けに開設準備や運営方法についての学習書。 担当部分：第6章 管理者の役割 pp. 48～54 著者：社団法人全国訪問事業協会編集
2 平成12年版 看護白書	共著	平成12年 5月	日本看護協会出版会	看護部長としての1年間の取り組みを通して、特定機能病院におけるチーム医療の課題と展望について考察を含めた事例報告。 担当部分：第3部「大学病院におけるチーム医療構築への取り組みから」 pp. 91～99 著者：日本看護協会編集
3 婦長のためのマネジメント (平成18年10月に看護ユニットマネジメントに書名を変更) 【作成した教科書から再掲】	共著	平成12年 8月	医学書院	婦長が業務改善をするために、研究のプロセスを活用して、実証的で組織的に取り組む方法について説明した管理者の自己学習書。 担当部分：業務改善と研究、pp. 143～149. 著者：新道幸恵、上泉和子監修
4 精神看護エクスペール16 リエゾン精神看護 【作成した教科書から再掲】	共著	平成18年 3月	中山書店	リエゾン精神看護の専門家を目指している看護師と協働する看護管理者のための学習書である。看護管理の視点から必要な知識や具体的な活用を紹介している。 担当部分：第7章 看護管理とリエゾン精神看護師の活用。 pp. 160～176 著者：坂田三充総編集、萱間真美責任編集
5 TACSシリーズ2 看護管理学 【作成した教科書から再掲】	共著	平成19年 1月	建帛社	学士課程の学生が思考訓練をしながら、看護管理学を学べるサブテキストである。 担当部分：「消費者のニーズ」 pp. 25～31 著者：中西睦子監修、編著は上泉和子、井上悦子、水流聡子
6 看護実践能力向上のための キャリア開発ラダー導入の 実際	共著	平成20年 2月	日本看護協会出版会	キャリア開発ラダーを導入するために必要な知識や方法を学ぶことのできる分かりやすい学習書である。 担当部分：冒頭の「人材育成としてのキャリア開発」担当した。 pp. 3～6 著者：日本赤十字社事務局看護部が編集し赤十字の職員が執筆
(学術論文)				
1 患者の持つ看護婦への期待の構造－2施設に入院中の成人男性患者との面接を通して－	単著	平成 3年 3月	修士論文	入院中の成人男性患者の面接調査結果を質的に分析し、看護婦への期待について構造化を試みた。
2 行政の場にみる“交渉力”	単著	平成 4年 3月	看護管理 2巻(2号), 85-87頁	行政における交渉のプロセスについて分析し、看護に求められる交渉力について考察をした。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
3 阪神大震災！ナースはどうかかわったか 自治体医療団としてののかかわり	共著	平成 7年 4月	エキスパートナース 11巻(4号), 44-47頁	災害発生直後に模索しつつ医療団の派遣を行ったプロセスを紹介し、派遣者の感想を含めた実践報告である。 担当部分：pp. 44 著者：鶴田恵子、沼尻光恵、内藤とも子、鈴木はるえ、岸本文子
4 横浜市のコンサルテーション導入について	単著	平成 8年 1月	ナーシング・トゥデイ 11巻(1号), 21-23頁	横浜市中で平成6年度から看護管理の専門家によるコンサルテーションを市立病院群の看護管理に生かす事業として行い、その経過と評価を踏まえて今後の看護管理のコンサルテーションの可能性について考察した実践報告である。
5 専門看護師導入システムモデルの構築について	単著	平成 8年11月	看護 48巻(11号), 146-154頁	日本看護協会に設置された専門看護師導入システム委員会は、14回開催して検討し、ヒヤリングや調査結果をもとに、D.A. Gilliesの看護管理過程を枠組みにして開発した導入モデルについて解説した。
6 新しい行政ポストにおけるエンパワーメントプロセス	単著	平成 9年 1月	看護管理 7巻(1号), 47-50頁	平成3年に横浜市の行政に看護業務担当の新ポストで採用された筆者の市立病院看護改革の5年間の取り組みをエンパワーメントのプロセスで考察した実践報告である。
7 看護業務改善における看護の本質とは	単著	平成 9年 2月	Quality Nursing 3巻(2号), 138-144頁	横浜市立病院の看護職員の確保・定着を目指して、看護業務改善に取り組んできた6年間の成果を踏まえて、「看護の本質」について考察する。看護業務の改善の方向性を明確にした「横浜市立病院看護指針」の紹介を含む実践報告である。
8 行政を動かす影響力ー市立病院の看護業務における変革	単著	平成 9年 2月	INR 20巻(2号), 43-49頁	行政で市立病院の看護職員確保・研修・業務改善事業に携わる立場から、取り組みプロセスで行使した影響力について考察した実践報告である。
9 行政に看護職を配置した効果分析	共著	平成 9年 3月	看護管理 7巻(3号), 204-212頁	看護管理者を対象に、行政に看護職を配置した効果についてアンケート調査を実施して分析結果報告。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：佐藤貴美子、鶴田恵子
10 看護業務改善に看護情報システムを道具として使う視点	単著	平成10年 3月	病院設備 40巻(2号), 176-179頁	看護情報システムを導入するにあたっての視点について、実施した経過を踏まえて報告。
11 横浜市立病院に勤務する助産婦の育成への取り組みについて	単著	平成10年 5月	助産婦 52巻(2号), 20-23頁	公立病院に求められる周産期医療において助産婦の期待される育成のあり方について検討したプロセスと成果について実践報告。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
12 「看護量測定」の標準化看護必要度を加味した看護料の導入を控えて	共著	平成11年 1月	看護展望 24巻(1号), 31-33頁	看護管理者として看護必要度の導入を前にして備えるべき課題について、研究結果に基づいた報告。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：田中由紀子、上泉和子、鶴田恵子、金井Pak雅子、西川美智子、平井さよ子
13 看護基礎教育における「看護管理」の実態調査	共著	平成11年 4月	看護 51巻(5号), 106-110頁	看護基礎教育における「看護管理」の教育内容や時間数等に関する実態調査報告。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：勝原裕美子、上泉和子、河口真奈美、荒井蝶子、金井Pak雅子、鶴田恵子、志自岐康子、平井さよ子、佐藤紀子、豊増佳子、山口美代子、田中由紀子、西川美智子、井部俊子、岩井郁子、パトリシア・アンダーウッド
14 看護、新しい世紀の役割	共著	平成12年 3月	日本病院会雑誌 47巻(3号), 411-440頁	看護の役割を考える上での新たな視点であるキャリア開発の概念的な整理と横浜市立病院の取り組みについて報告。 担当部分：pp. 109～114 著者：上泉和子、鶴田恵子、中野由夕香里、村嶋幸代、菅田勝也
15 看護必要度導入のあり方に関する研究 全国病院の看護必要度導入の準備状況に関する実態調査	共著	平成12年 3月	看護 53巻(3号), 45-48頁	看護必要度を導入するために必要な準備状況を把握するための調査を実施して分析された課題について報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：平井さよ子、上泉和子、金井Pak雅子、田中由紀子、鶴田恵子、西川美智子
16 看護必要度導入のあり方に関する研究 看護必要度変動状況調査	共著	平成12年 3月	看護 52巻(3号), 45-48頁	測定者による看護必要度の変動状況を把握するために調査を実施して分析された課題について報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：西川美智子、金井Pak雅子、上泉和子、田中由紀子、鶴田恵子、平井さよ子
17 看護必要度導入のあり方に関する調査 看護必要度導入に関するフォーカスインタビュー調査	共著	平成12年 3月	看護 52巻(3号), 49-52頁	看護必要度導入に関して看護管理者の必要性の認識や課題についてインタビュー調査を実施して、看護管理者が認識する課題を抽出した。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：金井Pak雅子、上泉和子、田中由紀子、鶴田恵子、西川美智子
18 変革する看護教育を受け止めて 現任教育の立場から	単著	平成12年 4月	看護 52巻(4号), 32-35頁	看護基礎教育が大学に移行するに伴い、臨床における新卒者の現任教育に取り組んでいる状況と課題についての実践報告。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
19 調査報告書：看護補助者のあり方に関する研究	共著	平成13年 3月	平成12年度木村看護教育振興財団の研究助成による研究報告書 1-44頁	無作為抽出した965病院と研究分担者の病院5病院を含めて調査対象とした。2病院でケーススタディーを行い、病院の状況に合わせて看護管理者が活用しており、看護補助者の育成について課題認識をあり、看護師の監督下での活用については看護師の能力も不足していた。 担当部分：研究代表者として統括をしているため、調査を実施して、全文を確認している。 著者：鶴田恵子、伊豆上智子他10名
20 看護業務基準をどう使うか 看護業務の組織化へ向け 看護業務を再構築	単著	平成13年 5月	看護 53巻(7号), 26-29頁	「看護業務基準」を医療事故発生後の業務点検や共通看護手順の作成に活用し、さらに基準の看護実践の組織化をもとにした看護業務を再構築への取り組みについて、大学病院の看護管理者としての実践報告。
21 調整機能を高める看護管理施設における看護管理者の立場から	単著	平成14年 3月	看護 54巻(4号), 118-120頁	看護管理者に求められる調整機能について文献と事例を使って解説した。
22 提言 私が考える卒後臨床研修プログラム 看護管理者の立場から	単著	平成14年 4月	看護 54巻(5号), 40-43頁	卒後臨床研修必修化を検討するにあたり、看護管理者の立場から「看護管理上の課題と分離」「看護師免許の価値」「考えて実践する看護師の成長を支援」という3点について提言した。
23 提言 検討会報告書—私はこう考える。看護管理者の立場から	単著	平成15年11月	看護 55巻(15号), 56-58頁	在院日数短縮、国立大学法人化など病院を巡る厳しい医療環境を踏まえ、検討会報告書で言及した看護業務拡大を読み解く。業務拡大に安易に諸手を上げるのではなく、看護管理者として業務拡大の背景や根拠について考察した報告。
24 CNSの活用方法に関する 管理者教育	単著	平成16年 6月	小児看護 28巻(6号), 704-710頁	看護管理者が専門看護師を活用するために必要な知識を学習する認定看護管理者教育の実態を解説。
25 病院看護管理の進歩と看護教育	単著	平成18年 3月	看護 58巻(4号), 81-84頁	病院看護管理の進歩と看護教育の実態から看護のあり方について提言
26 看護部長が期待している専門看護師の業務内容と責任の範囲（査読付）	共著	平成18年 3月	日本赤十字看護大学紀要（20号）, 32-42頁	専門看護師を導入して10年を経過した病院の4人の看護部長からのインタビュー結果を分析して、看護管理過程を明らかにし、業務内容と責任の範囲について考察した。 担当部分：pp. 32～42 著者：鶴田恵子、渡邊三紀子、田中由起子、前田久美子
27 日本における看護職需給推計モデルの開発（第1報） カナダオンタリオ州と日本の看護人的資源データベースの比較（査読付）	共著	平成18年 8月	日本管理学会会誌 10巻(1号), 5-11頁	オンタリオ州の実地調査を踏まえてカナダと日本の看護人的資源データベースを比較した。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：伊豆上智子、前田樹海、杉若裕子、金井Pak雅子、鶴田恵子、上泉和子

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
28 日本における看護職需給推計モデルの開発（第2報）ヘルスケアニードとコホート要因法に基づくモデル試案（査読付）	共著	平成18年 8月	日本看護管理学会誌 10巻(1号), 12-20頁	ヘルスケアニードとコホート要因法に基づくモデル試案の検討結果報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：前田樹海、伊豆上智子、杉若裕子、金井Pak雅子、鶴田恵子、上泉和子
29 部下を動かすマネジメントとリーダーシップ	単著	平成18年12月	看護 58巻(15号), 53-57頁	看護管理者のマネジメントとリーダーシップに関する知識と看護管理者に求められる能力についての解説。
30 新人が“育つ”環境をつくる	単著	平成19年 2月	看護展望 32巻(3号), 108-111頁	新人を育てるのではなく、育つ環境について、文献や事例を用いた解説
31 新人看護師をどう育てるか 看護教育者の立場から	単著	平成19年 3月	看護 59巻(4号), 189-191頁	看護教育の立場から新人看護の育成のあり方を提言
32 看護管理学の進化、さらなる変革への挑戦 激動の時代を生き抜くために 看護管理のパフォーマンスと知	単著	平成19年 3月	日本看護管理学会誌 10巻(2号), 6-13頁	第10回日本看護管理学会年次大会会長講演内容である。看護管理実践の2事例をもとに看護管理の「知」と生み出す「場」について考察した。
33 医療制度改革が看護教育に与える影響 教育側からみた今後の展望（査読付）	単著	平成19年 5月	インターナショナルナースングレビュー 30巻(3号), 88-93頁	医療制度改革が看護教育に与える影響について分析し教育の立場からの展望について解説
34 看護基礎教育卒業時の看護技術の到達目標に関する教育者と看護実践者の意見の相違 デルファイ第1回調査の結果から（査読付）	共著	平成20年 3月	神奈川県立保健福祉大学誌 5巻(1号), 117-125頁	看護基礎教育卒業時における看護技術到達目標のデルファイ第1回調査では、教育者と看護実践者の意見に相違が見られた。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：水戸優子、小山真理子、片平伸子、山口由子、川守田千秋、植村由美子、朝倉美奈、野崎真奈美、鶴田恵子、手島恵
35 看護職の賃金制度の現状に関する実態調査（査読付）	共著	平成20年 3月	日本赤十字看護大学紀要 (22号), 80-87頁	関東圏の自治体で賃金制度の実態調査とヒヤリング調査を行い、現状を明らかにした。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：酒井美絵子、鶴田恵子
36 専門看護師と認定看護師の賃金体系モデル案	単著	平成20年 5月	Nursing BUSINESS 2巻(5号), 424-427頁	役割拡大が進む専門看護師と認定看護師の賃金体系について、現状分析し、賃金制度と比較して試作したモデル案を報告した。
37 変革と前進を続けるために	単著	平成20年 7月	看護 60巻(9号), 66-67頁	看護管理者に必要な変革に関する知識の解説
38 現代に期待される看護師長像	単著	平成21年 2月	看護展望 34巻(3号), 265-268頁	看護師長に関連した文献から現代に求められる看護師長像について分析した
39 看護管理者が組織運営に活用するデータ項目に関する基礎調査（査読付）	共著	平成21年 3月	日本赤十字看護大学紀要 (23号), 27-35頁	急性期病院の看護管理者が活用しているデータ項目と関連した看護管理実践を明らかにした。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：田口実里、鶴田恵子

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
40 研究報告書 医療機能の高い老人保健施設における看護のあり方に関する研究	共著	平成21年 5月	平成20年度「赤十字と看護・介護に関する研究」助成金による研究 1-73頁	米国のスキルドナーシングホームの実地調査を行い、日本の老人保健施設を比較し、看護あり方について考察した。 担当部分：研究代表者として統括及び研究 著者：鶴田恵子、酒井美絵子、田口実里、寛淳夫
41 週40時間勤務に捕らわれている看護管理者へ	単著	平成21年 5月	看護 61巻(7号), 101-103頁	看護管理者への提言として、多様な勤務体制について、北米の勤務表を紹介して、マネジメントの点検を示唆した。
42 今後目指すべきリソースナースのかたち	単著	平成21年 8月	Nursing BUSINESS 3巻(8号), 739-741頁	リソースナースの原点と高度実践看護師への発達を展望した組織デザインを提案した。
43 役割拡大が議論される背景	単著	平成21年 9月	看護 61巻(10号), 40-42頁	役割拡大が議論される背景について、看護制度検討会から現在までの経緯について解説した。
44 意思決定の重要性	単著	平成22年12月	看護 63巻(1号), 40-41頁	看護管理者に必要な「意思決定」の知識について解説した。
45 デルファイ調査による看護教育者と看護実践者が合意する看護基礎教育卒業時の看護技術の到達目標と到達度に関する検討（査読付）	共著	平成23年 9月	日本看護科学学会誌 31巻(3号), 21-31頁	到達目標143項目に絞り込み、教育者91名と実践家98名を対象に3回デルファイ法を行い、ほぼ合意が得られた。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：水戸優子、小山真理子、片平伸子、山口由子、川守田千秋、植村由美子、野崎真奈美、鶴田恵子、手島恵
46 平成22年度～平成23年度総合研究報告書 安全・安心な在宅医療を行うための病院と在宅との中間施設における看護あり方に関する研究	共著	平成24年 3月	厚生労働科学研究費補助金 政策科学総合研究（政策科学推進研究事業）研究事業 1-54頁	医療依存度の高いまま退院する患者の実態を明らかにして、病院と在宅との中間施設の先駆的な施設調査を行い、看護のあり方について検討を行なった。安全・安心な在宅療養できるように療養支援パスを開発した。 担当部分：研究代表者として統括と研究 著者：鶴田恵子、酒井美絵子、川村佐和子、田口実里、寛淳夫、原口道子
47 研究報告書 病院と在宅をつなぐ中間施設における看護のあり方に関する研究 病院と在宅をつなぐ介護老人保健施設の連携システムの構築	共著	平成26年 5月	平成25年度「赤十字と看護・介護に関する研究」助成金による研究 1-20頁	COPDの患者のHOT導入に伴う病院・介護老人保健施設・在宅の3拠点の看護の連携システムの構築及びそのプロセスを明らかにするために検討会の開催を通してアクションリサーチを実施した。 担当部分：主任研究者として統括及び研究 著者：鶴田恵子、酒井美絵子、安部陽子、田口実里他6名
48 修士論文のテーマからみえてくる看護師長に求められる役割と資質	単著	平成27年 3月	看護展望 40巻(5号), 430-435頁	11年間37名の修士課程修了者の指導を通してみえてくる看護師長に求められる役割と資質について考察した。
49 地域包括ケア時代のコミュニケーション	単著	平成27年 5月	九州コミュニケーション研究 13巻, 1-16頁	地域包括ケアシステムにおけるコミュニケーションに着目して、在宅での看取りのプロセスを事例にそって分析した。
50 専門・認定看護師制度の現状と今後の展望	単著	平成28年 4月	ファルマシア 52(4), 298-302頁（公益社団法人 日本薬学会）	日本における専門看護師・認定看護師の制度の概要と展望

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
51 病院看護職の女性が妊娠・出産しやすい職場を創るための制度とその運用	共著	平成28年10月	看護展望 41(13), 1262-1268頁	病院看護職の女性が妊娠・出産しやすい職場を創るための制度と運用の実態について明らかにした 安部陽子ほか8名
52 分割型実習で学生が看護過程を展開するための教育方略（査読付）	共著	平成30年 3月	聖隷クリストファー大学看護学部紀要 (26), 51-57頁	榎原理恵、鶴田恵子、新實夕香理、炭谷正太郎、佐久間佐織、水野美香、柴田めぐみ
53 2019年度看護学部教育課程の改定について（査読付）	共著	平成31年 3月	聖隷クリストファー大学看護学部紀要 (27), 1-10頁	豊島由樹子、長峰伸治、熊澤武志、他10名
54 「看護の将来を考える会」の活動報告（査読付）	共著	平成31年 3月	聖隷クリストファー大学看護学部紀要 (27), 11-19頁	榎原理恵、佐久間佐織、藤本栄子、川村佐和子
55 臨地実習を修了した看護学生に対するシミュレーション教育の効果（査読付）	共著	令和 2年 3月	聖隷クリストファー大学看護学部紀要 (28), 29-39頁	
56 病院に勤務する女性看護師が妊娠継続を困難に感じた体験（査読付）	共著	令和 4年 1月	日本看護研究学会雑誌 44(5), 763-776頁	新田真弓・安部陽子・佐々木美樹・千葉邦子・高田由紀子・辻田幸子・古山麻実子・鶴田恵子
57 特定行為研修における3年間の取り組み（査読付）	共著	令和 4年 3月	聖隷クリストファー大学看護学部紀要 (30), 1-8頁	本田彰子・川村佐和子・鶴田恵子・佐久間佐織・藤浪千種
58 学部における「看護管理」教育の推移と今後の方向性（査読付）	共著	令和 5年 3月	聖隷クリストファー大学看護学部紀要 (31), 1-8頁（聖隷クリストファー大学）	鶴田恵子、田口実里
59 本学における看護師特定行為研修の特色（査読付）	共著	令和 5年 3月	聖隷クリストファー大学看護学部紀要 (31), 9-18頁（聖隷クリストファー大学）	佐久間佐織、鶴田恵子、藤本栄子、山村江美、藤浪千種、天野薫
60 浜松看護管理研究会における活動報告（査読付）	共著	令和 5年 3月	聖隷クリストファー大学看護学部紀要 (31), 29-35頁（聖隷クリストファー大学）	山田弘美、赤石ゆかり、岡田智子、中山久美、鶴田恵子、榎原理恵、田口実里
（その他）				
1 患者の持つ看護婦への期待の構造	単著	平成 3年12月	第11回日本看護科学学会学術集会	入院患者の持つ看護婦への期待について質的分析を行い、看護婦への期待の構造について明らかにした。
2 患者ケアニーズの構成要素の抽出－文献検討を通して－	共著	平成 7年12月	第15回日本看護科学学会学術集会	文献から看護ケアニーズの概念について分析した結果を報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：島田陽子、鶴田恵子、佐藤エキ子、坂口三枝子、井部俊子
3 患者ケアニーズの構成要素の抽出－看護婦の認知する看護ケア分析－	共著	平成 7年12月	第15回日本看護科学学会学術集会	4病院975名看護婦を対象に認知するケア内容についてアンケート調査を実施し分析した結果の報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：鶴田恵子、島田陽子、井部俊子、佐藤エキ子、坂口三枝子
4 行政に看護職を配置した効果分析	共著	平成 8年10月	第34回日本病院管理学会学術集会	行政に看護職が配置されて所管の看護管理者からみた効果分析の結果報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：佐藤貴美子、鶴田恵子

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5 外来看護の質と成果評価ツールの検討	共著	平成 8年12月	第16回日本看護科学学会学術集会	評価ツールの検討報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：金井Pak雅子、井部俊子、島田陽子、上泉和子、鶴田恵子、安川史朗
6 外来診療における主体的な看護活動の分析	共著	平成 8年12月	第16回日本看護科学学会学術集会	外来において看護が主体的に取り組んでいる看護活動の事例分析報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：鶴田恵子、井部俊子、金井Pak雅子、上泉和子、島田陽子、安川文郎
7 看護の評価向上策の研究ー内科外来処置室利用患者への看護介入の実態ー	共著	平成 8年12月	第16回日本看護科学学会学術集会	内科外来処置室に長時間滞在する患者の看護介入の実態調査結果の報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：島田陽子、井部俊子、金井Pak雅子、上泉和子、鶴田恵子、安川文郎
8 医療機関におけるケアニーズの構成要素の検討	共著	平成 9年10月	第35回日本病院管理学会学術集会	入院患者のケアニーズの構成要素を抽出 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：高谷嘉枝、新道幸恵、鶴田恵子他
9 外来診療における先駆的外来看護活動の分析	共著	平成 9年12月	第17回日本看護科学学会学術集会	先駆的外来看護活動の事例分析報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：鶴田恵子、井部俊子、島田陽子、金井Pak雅子、上泉和子、安川文朗
10 看護管理教育カリキュラム開発	共著	平成11年 8月	第2回日本看護管理学会年次大会	現行の看護管理教育カリキュラムの分析結果報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：豊増佳子、佐藤紀子、荒井蝶子、井部俊子、金井Pak雅子、上泉和子、田中由紀子、鶴田恵子、西川美智子、平井さよ子
11 「看護管理」教育内容に関するデルファイ調査	共著	平成11年12月	第19回日本看護科学学会学術集会	デルファイ法で看護管理教育内容を抽出 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：河口真奈美、上泉和子、勝原裕美子、鶴田恵子、金井Pak雅子、佐藤紀子、平井さよ子、志自岐康子、豊増佳子、岩井郁子、荒井蝶子、井部俊子
12 看護必要度評価への患者自己評価導入について	共著	平成11年12月	第19回日本看護科学学会学術集会	患者が看護必要度を自己評価する方法と結果の分析 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：成田康子、上泉和子、金井Pak雅子、鶴田恵子、平井さよ子
13 スタッフナースの育成について	共著	平成12年 8月	第3回日本看護管理学会年次大会	婦長が現実的に到達して欲しい看護実践能力の内容を抽出してスタッフナースの育成ビジョンを作成した実践報告。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：五十嵐佳子、小傘田智子、重吉睦子、柏倉淑子、内木幸枝、鶴田恵子

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
14 大学附属病院における看護教育プログラム開発（第1報）新卒看護職者の看護技術習得状況について	共著	平成12年 8月	第3回日本看護管理学会年次大会	新卒看護師の看護技術習得状況について実態調査を行なって看護技術項目を抽出した。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：天野志保、鶴田恵子、小牟田智子、叶谷由佳、日下和代
15 看護必要度による患者分類導入に関する研究 チェック票の記入およびデータ入力所要時間調査	共著	平成12年 8月	第3回日本看護管理学会年次大会	看護必要度のチェックに入力を含む所要時間調査結果 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：佐藤愛、上泉和子、鶴田恵子、金井Pak雅子、田中由紀子、西川美智子、平井さよ子、成田康子、藤本真紀子
16 看護必要度による患者分類導入に関する研究 導入に際して求められる課題	共著	平成12年 8月	第3回日本看護管理学会年次大会	看護必要度チェックを行った看護職員の意見内容の分析結果 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：藤本真紀子、上泉和子、鶴田恵子、金井Pak雅子、平井さよ子、田中由紀子、西川美智子、成田康子、佐藤愛
17 看護必要度による患者分類導入に関する研究 看護必要度のチェック結果の一致度調査	共著	平成12年 8月	第3回日本看護管理学会年次大会	測定者による一致度調査結果の分析 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：成田康子、田中由紀子、西川美智子、上泉和子、金井Pak雅子、鶴田恵子、平井さよ子
18 スタッフナースの育成について	共著	平成13年 8月	第4回日本看護管理学会年次大会	特定機能病院で臨床看護実践能力についてアンケート調査を実施し、育成上の課題について分析を行い、スタッフナースの育成ビジョンを策定した。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：五十嵐佳子、小牟田智子、重吉睦子、柏倉淑子、内記幸枝、鶴田恵子
19 特定機能病院看護管理の実践報告	単著	平成14年 9月	第7回聖路加看護学会学術大会	国立大学病院看護組織の法的な位置づけと3年間の看護管理実践報告
20 外来看護機能と看護基礎教育上の課題	共著	平成14年12月	第22回日本看護科学学会学術集会	外来看護機能が発展する時期を迎え、看護基礎教育にもたらす影響と課題に関する分析結果の報告 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：柴田秀子、井部俊子、鶴田恵子、小栗祐子
21 高齢者ケア施設における教育・研修に関する研究（第1報）ケア提供者の調査分析	共著	平成14年12月	第22回日本看護科学学会学術集会	高齢者ケア提供者の教育・研修ニーズに関する調査結果 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：吹田由起子、山本春江、小山敦代、中村恵子、上泉和子、出貝裕子、杉若裕子、奥野茂代、勝野とわ子、鶴田恵子
22 高齢者ケア施設における教育・研修に関する調査（第2報）管理者の調査分析	共著	平成14年12月	第22回日本看護科学学会学術集会	高齢者ケア施設管理者からみたケア提供者の教育・研修ニーズについての調査結果 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：杉若裕子、上泉和子、出貝裕子、中村恵子、小山敦代、山本春江、吹田由起子、奥野茂代、勝野とわ子、鶴田恵子

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
23 高齢者ケア施設における教育・研修に関する研究（第3報）実地研修プログラム開発と評価	共著	平成15年12月	第23回日本看護科学学会学術集会	高齢者施設ケア施設において必要な実地研修プログラムを開発して、評価を行った 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：小山敦代、山本春江、中村恵子、上泉和子、吹田由起子、杉若裕子、出貝裕子、木浪智佳子、奥野茂代、勝野とわ子、鶴田恵子
24 高齢者ケア施設における教育・研修に関する研究（第4報）実地研修の成果と課題	共著	平成15年12月	第23回日本看護科学学会学術集会	高齢者ケア施設の看護師を対象に、大学病院で実地研修プログラムを実施して、成果と課題について分析した。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：出貝裕子、小山敦代、山本春江、中村恵子、上泉和子、吹田由起子、杉若裕子、木浪智佳子、奥野茂代、勝野とわ子、鶴田恵子
25 現行の看護基礎教育カリキュラムの実態とその問題点（その1）教育体制、単位数、教育内容、に焦点をあてて	共著	平成17年 8月	第15回日本看護学教育学会学術集会	教育機関のカリキュラム責任者を対象に調査を行い、過密な教育内容と教育体制や教育方法に問題があった。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：小山真理子、白水真理子、原田竜三、廣川聖子、加藤尚美、相澤和美、伊奈こう子、及川郁子、手島恵、浅川明子、鶴田恵子、星北斗
26 現行の看護基礎教育カリキュラムの実態とその問題点（その2）臨地実習に焦点をあてて	共著	平成17年 8月	第15回日本看護学教育学会学術集会	小児・母性・在宅・成人等で実習施設の確保に関して不足していることが明らかになった。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：小山真理子、白水真理子、廣川聖子、相澤和美、原田竜三、加藤尚美、伊奈こう子、手島恵、及川郁子、浅川明子、鶴田恵子、星北斗
27 現行の看護基礎教育カリキュラムの実態とその問題点（その3）指定規則改善に向けての意見の分析	共著	平成17年 8月	第15回日本看護学教育学会学術集会	過密な教育内容に加えて必要な知識が増加し、看護専門科目の内容と時間数は社会の変化を踏まえて再構築する必要がある。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：白水真理子、小山真理子、加藤尚美、相澤和美、伊奈こう子、廣川聖子、原田竜三、手島恵、及川郁子、鶴田恵子、浅川明子、星北斗
28 看護基礎教育の実習生を受け入れる側の臨地実習上の課題	共著	平成17年11月	第25回日本看護科学学会学術集会	病院の看護管理者を対象に調査を行い、臨床の場で求められる能力と看護基礎教育の内容に乖離があった。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：伊奈こう子、小山真理子、白水真理子、廣川聖子、原田竜三、加藤尚美、相澤和美、手島恵、及川郁子、浅川明子、鶴田恵子、和賀徳子

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
29 看護基礎教育卒業時の看護技術の到達目標、(その1)	共著	平成18年11月	第26回日本看護科学学会学術集会	到達目標143項目に絞り込み、教育者91名と実践家98名を対象に3回デルファイ法を行い、ほぼ合意が得られた。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：小山真理子、片平伸子、水戸優子、山口由子、川守田千秋、及川郁子、鶴田恵子、手島恵、植村由美子、朝倉美奈、野崎真奈美、高田早苗
30 看護基礎教育卒業時の看護技術の到達目標、(その2) 妥当性の検討	共著	平成18年11月	第26回日本看護科学学会学術集会	デルファイ法でほぼ合意が見られた到達目標を教育者と実践家によるフォーカスグループインタビューで妥当性を検討した。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：小山真理子、水戸優子、川守田千秋、山口由子、鶴田恵子、手島恵、及川郁子、野崎真奈美、高田早苗、片平伸子、植村由美子、朝倉美奈
31 看護職における賃金制度の在り方の検討	共著	平成19年 9月	第45回日本病院管理学会	看護職の賃金制度に関する実態調査から多様化しており、専門看護師や認定看護師の処遇については不十分であった。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：酒井美絵子、鶴田恵子
32 認定看護師教育課程 感染管理コースの実績と今後	共著	平成19年10月	第43回日赤医学会総会	感染管理認定看護師の資格を取得後の役割・職位・給与の変化について調査を行い、個人的な課題と組織的な課題を明らかにした。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：中澤恵、塩入久美子、菅原えりさ、鶴田恵子 感染管理認定看護師の資格を取得後の役割・職位・給与の変化について調査を行い、個人的な課題と組織的な課題を明らかにした。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：中澤恵、塩入久美子、菅原えりさ、鶴田恵子
33 医療改革後の地方自治体における看護確保対策事業の実態	共著	平成20年 8月	第12回日本看護管理学会年次大会	47都道府県にアンケート調査を行い回収率53.2%。人材確保・人材養成の事業は優先度が高く、資質・専門性にかかる事業が新規で行われている県と取りやめる県があり、地方財政の影響があると考えられる。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：酒井美絵子、鶴田恵子
34 看護管理者が組織運営に活用するデータ項目に関する基礎調査	共著	平成20年 8月	第12回日本看護管理学会年次大会	急性期病院の看護管理者が活用しているデータ項目と関連した看護管理実践を明らかにした。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：田口実里、鶴田恵子

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
35 地方自治体における看護確保対策事業予算確保の方略の分析	共著	平成20年11月	第28回日本看護科学学会学術集会	地方自治体看護担当者にヒヤリング調査を行い、調査で現状分析を行って予算確保していた。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：酒井美絵子、鶴田恵子
36 認定看護師教育課程感染管理コースにおける3年間の実績	共著	平成21年 6月	第10回日本赤十字看護学会学術集会	3年間の実績を取り纏め、現状分析を行い、課題と方向性について検討を行った。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：田口美里、杉町富貴子、鶴田恵子
37 介護療養型医療施設の看護管理のあり方の検討－Skilled Nursing Facilityの看護管理の内容から	共著	平成21年 8月	第13日本看護管理学会年次大会	米国のカリフォルニア州にある6カ所のSNFで視察と聞き取り調査を行い、医療依存度の高い介護療養型老人保健施設の看護体制や看護師に求められる能力について考察した。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：酒井美絵子、鶴田恵子、田口実里、笈淳夫
38 Nursing at geriatric health services facilities providing high quality health care	共著	平成21年 9月	The 1st international Nursing Research Conference of World Academy Nursing Science	医療依存度の高い長期療養施設である米国のSNFの調査結果と日本の介護療養型老人保健施設を比較した。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：酒井美絵子、鶴田恵子、笈淳夫
39 医療依存度の高い患者に対する急性期病院での退院指導の実践	共著	平成23年 8月	第15回日本看護管理学会年次大会	急性期病院で4の看護師に面接調査を実施し質的分析を行った。退院指導が不十分な状況で患者は高齢化してきている。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：酒井美絵子、田口実里、川村佐和子、原口道子、笈淳夫、鶴田恵子
40 日本看護管理学会年次大会における研究の動向	共著	平成23年 8月	第15回日本看護管理学会年次大会	第14回年次大会までに発表された1205題の研究について抄録をもとにテーマ内容を分析して研究の動向を明らかにした。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：織田幸恵、大木千春、佐藤千春、塩入久美子、源川奈央子、田口実里、鶴田恵子
41 安全・安心な在宅移行支援のための「療養支援パス」の開発	共著	平成24年 8月	第16回日本看護管理学会年次大会	在宅酸素療法を導入する患者を対象にした療養支援パスを開発した。項目は看護アセスメント・看護介入・看護指導・社会資源とした。 分担部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：酒井美絵子、田口実里、川村佐和子、笈淳夫、原口道子、鶴田恵子

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
42 病院と在宅をつなぐ介護老人保健施設の連携システムの構築—システム構築のプロセスに焦点をあてて—	共著	平成26年 8月	第18回日本看護管理学会学術集会	COPDの患者のHOT導入に伴う病院・介護老人保健施設・在宅の3拠点の看護の連携システムの構築及びそのプロセスを明らかにするために検討会の開催を通してアクションリサーチの結果報告。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：田口実里、酒井美絵子、安部陽子、鶴田恵子
43 病院と在宅をつなぐ介護老人保健施設の連携システムの構築—在宅酸素導入から在宅へのフローチャートの作成—	共著	平成26年 8月	第18回日本看護管理学会学術集会	3拠点の連携システムを構築するため、フローチャート作成し、具体化への検討が送信した。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：酒井美絵子、田口実里、安部陽子、鶴田恵子
44 地域ケア実践のための介護老人保健施設の看護のあり方に関する研究—看護責任者への質問紙調査から—	共著	平成27年 8月	第19回日本看護管理学会学術集会	看護責任者を対象にアンケート調査を行い、医療依存度の高い利用者が増加して、看護師の配置が不足していた。 担当部分：共同研究につき本人の担当部分抽出不可能 著者：酒井美絵子、鶴田恵子
45 病院の看護職である女性の妊娠・出産と看護単位の特性 第1報	共著	平成28年 8月	第20回日本看護管理学会学術集会(横浜)	病院の看護職である女性の妊娠・出産と関係する看護単位の特性が明らかになった 安部陽子他6名
46 日本看護管理学会20年の歩みとこれから	共著	平成28年12月	日本看護管理学会誌(一般社団法人日本看護管理学会)20(2)	看護管理学会の20年の歴史と今後の課題整理 酒井美絵子他9名(126-134頁)
47 看護管理学領域修士課程修了後の看護管理実践の変化—カリキュラムの有用性に着目して—	共著	平成29年 8月	第21回日本看護管理学会学術集会(横浜)	12名を対象にフォーカスグループインタビューで看護管理者の実践の変化を明らかにした 源川奈央子ほか7名
48 Individual and Workplace Characteristics Relating to Reproductive Behaviors Among Female Japanese Hospital Nurses	共著	平成29年10月	TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017 (Bangkok, Thailand.)	Kiyoko Abe, Sachiko Tsujita, Kuniko Chiba, Yuka Yamamoto, Mayumi Nitta, Miki Akai, Mamiko Huruya, Yoshiko Ajima, Junichi Okada, Keiko Tsuruta
49 中規模病院の看護組織にサーバントリーダーシップは有効か	共著	平成30年 8月	第22回日本看護管理学会学術集会(兵庫県神戸市)	榎原理恵、太田 優子、宗宮 知香、野村 郁子、福井 是子、市川 幸子、鶴田 恵子
50 地域に貢献し活躍できる高度実践看護管理者の育成を目指す	共著	平成30年 8月	看護管理(医学書院)28(8)	鶴田恵子、榎原理恵、中山久美、赤石ゆかり(661-665頁)
51 看護管理学領域修士課程修了後の看護管理実践の変化(第2報)カリキュラムの有用性から再構築に向けた課題	共著	平成30年 8月	第22回日本看護管理学会学術集会(兵庫県神戸市)	河嶋 知子、源川 奈央子、笹原 啓子、山崎 みつ江、小野寺 澄、福村 寛子、鈴木 恵子、酒井 美絵子、鶴田 恵子
52 病院経営幹部職員および幹部候補生への研修状況に関する調査研究	共著	平成30年10月	第56回日本医療・病院管理学会学術総会(福島県郡山市)	白髪昌世、今中雄一、上塚芳郎、小林健一、渋谷明隆、戸根経夫、他4名
53 看護組織とサーバントリーダーシップの親和性	共著	令和元年 8月	第23回日本看護管理学会学術集会(新潟県新潟市)	榎原理恵、佐久間佐織、大崎和子、宗宮知香

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
54 地域包括ケアシステムを推進するために必要な退院支援の現状と課題	共著	令和元年 9月	第10回せいい看護学会学術集会(静岡県浜松市北区三方原町)	榎原理恵、川村佐和子、佐久間佐織 (108-112頁)
55 多職種協働でこそ求められるサーバントリーダーシップ「特定行為研修修了者導入システムモデル」焦点をあてて	単著	令和元年11月	看護(日本看護協会出版会)71(14)	
56 小さな病院でいきいきと働くには	単著	令和元年11月	地域ネットワークづくりのための看護職研修会(兵庫県淡路市)	
57 サーバントリーダーシップがなぜ求められるか	共著	令和 2年 8月	第24回日本看護管理学会学術集会	
58 コロナ禍における人材育成	単著	令和 3年 2月	2020年度講演会・研修会(Web開催)	
59 寄り添う看護とは	単著	令和 3年 3月	令和2年度卒業記念講演会(焼津市)	
60 療養生活支援の専門家である看護職が育つ視点	単著	令和 3年 3月	第43回大分県看護研究学会(大分市)	
61 他職種協働とサーバントリーダーシップ	単著	令和 3年 8月	第25回日本看護管理学会学術集会(横浜市)	
62 日本看護管理学会の未来を語る	共著	令和 3年 8月	第25回日本看護管理学会学術集会(横浜市)	